

RYOBI®

木口スリット加工機

TWC-510

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

このたびは、リョービ木口スリット加工機をお買上げいただきありがとうございます。安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までよくお読み下さい。

使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

注意文の「△警告」、「△注意」の意味について

ご使用の注意事項は「△警告」と「△注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

△警告：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△注意：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお「△注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守って下さい。

■安全上のご注意

- ・火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守って下さい。
- ・ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用して下さい。
- ・お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管して下さい。

△ 警 告

1. 作業場はいつもきれいに保って下さい。
 - ・ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 作業場の周囲状況も考慮して下さい。
 - ・機械は、雨中で使用したり、湿った、またはぬれた場所で使用しないで下さい。
 - ・作業場は十分に明るくして下さい。
 - ・可燃性の液体やガスのある所で使用しないで下さい。
 - ・転倒事故を防止する為、機械周囲の床には物を置かないで下さい。
 - ・機械周辺の床は常に水や油で濡れていないようにして下さい。水や油をこぼした場合は、直ちに拭き取って下さい。
3. 電気工事は自分で行なわないで下さい。
 - ・電源の誤配線による重傷事故を避ける為、電気工事については電気工事士の免許のある方が必ず行なって下さい。
4. 子供を近づけないで下さい。
 - ・作業員以外、作業場へ近づけないで下さい。
5. 無理して使用せず作業に合った機械を使用して下さい。
 - ・安全に能率よく作業する為、指定された用途以外に使用せず、機械の能力に合った速さで作業して下さい。

6. きちんとした服装で作業して下さい。
 - ・だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は、回転部に巻込まれる恐れがありますので着用しないで下さい。
 - ・手袋は刃物の交換の際に使用する以外は回転部に巻込まれる恐れがありますので絶対に使用しないで下さい。
 - ・屋外での作業の場合には、滑止めのついた履物の使用をお勧めします。
 - ・長い髪は、帽子やヘアカバー等で覆って下さい。
7. 保護めがねを使用して下さい。
 - ・作業時は、保護めがねを使用して下さい。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用して下さい。
8. コードを乱暴に扱わないで下さい。
 - ・コードを引張ってコンセントから抜かないで下さい。
 - ・コードを熱、油、角のとがった所に近づけないで下さい。
9. 無理な姿勢で作業をしないで下さい。
 - ・常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにして下さい。
10. 機械は注意深く手入れをして下さい。
 - ・安全に能率よく作業をしていただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保って下さい。
 - ・注油や付属品の交換は、取扱説明書に従って下さい。
 - ・コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買上げの販売店またはリョービ販売営業所に修理を依頼して下さい。
 - ・延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換して下さい。
 - ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースがつかないようにして下さい。
 - ・機械の可動部分との接触による重傷事故を避ける為に、部品交換の際には電源プラグを外し、かつ元スイッチを「切り」の状態にして下さい。
(注)元スイッチとは建物に取付けてある電源スイッチのことで、起動スイッチのことではありません。
11. 次の場合は、元スイッチを「切り」の状態にして、かつプラグを電源から抜いて、刃物類の回転が停止した後に行なって下さい。
 - ・使用しない、または保守、点検、修理をする場合。
 - ・刃物、砥石、ビット等の付属品の交換をする場合。
 - ・清掃する場合。
 - ・機械の故障、異状に対処する場合。
 - ・その他危険が予想される場合。
(注)元スイッチとは建物に取付けてある電源スイッチのことで、起動スイッチのことではありません。

12. 調節キーやレンチ等は、必ず取外して下さい。
 - ・電源を入れる前に、調節に用いたキーやレンチ等の工具類が取外してあることを確認して下さい。
13. 不意な始動は避けて下さい。
 - ・元スイッチを「入」にする前に、機械のスイッチが切れていることを確かめて下さい。
14. 油断しないで十分注意して作業を行なって下さい。
 - ・機械を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況等十分注意して慎重に作業して下さい。
 - ・疲れている場合は、使用しないで下さい。
15. 損傷した部品がないか点検して下さい。
 - ・使用前に、保護カバーや回転軸、歯車、プーリー、ベルトなどに損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認して下さい。
 - ・可動部分の位置調節および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異状がないか確認して下さい。
 - ・損傷した保護カバー、回転軸、歯車、プーリー、ベルトなどの部品交換や修理は取扱説明書の指示に従って下さい。取扱説明書に指示されていない場合は、お買上げの販売店またはリョービ販売営業所に修理を依頼して下さい。スイッチが故障した場合は、お買上げの販売店またはリョービ販売営業所で修理を行なって下さい。スイッチで始動および停止操作の出来ない機械は使用しないで下さい。
16. 指定の付属品やアタッチメントを使用して下さい。
 - ・本取扱説明書およびリョービパワーツールカタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがありますので使用しないで下さい。
17. 機械の修理は、専門店で依頼して下さい。
 - ・本製品は該当する安全規格に適合していますので改造しないで下さい。
 - ・修理は、必ずお買上げ販売店またはリョービ販売営業所にお申し付けて下さい。修理の知識や技術の無い方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく事故やけがの原因となります。

騒音について

ご使用に際し、周囲に迷惑をかけないように、各都道府県等の条例で定める騒音規制値以下でご使用になる必要があります。必要に応じてしゃ音壁を設けるなどして下さい。

木口スリット加工機ご使用に際して

先に機械としての共通注意事項を述べましたが、木口スリット加工機をご使用の際には、さらにつぎに述べる注意事項を守って下さい。

⚠ 警 告


1. 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用して下さい。
 - ・表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となりけがの原因となります。
2. 運転中は丸鋸刃、バイス部などの可動部には絶対に手を触れないで下さい。
 - ・けがの原因になります。
3. 使用中、機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買上げ販売店またはリョービ販売営業所に点検、修理を依頼して下さい。
 - ・そのまま使用していると、けがの原因になります。
4. 正面カバーやスライド式の丸鋸カバーなどの安全カバーは取付けした状態で使用して下さい。

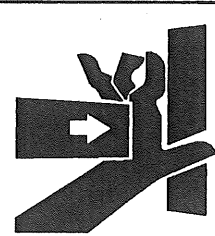
また作業前には、材料の高さに合わせて、スライド式の丸鋸カバーの位置を調整して下さい。


 - ・指や手などの切断事故や、バイスに手を挟み込み、けがの原因になります。
5. 材料とバイスの間には手を入れないで下さい。
 - ・バイスに手を挟み込み、けがの原因になります。
6. 丸鋸軸に取付ける丸鋸刃はφ510mmの物を使用して下さい。
 - ・けがの原因になります。
7. 丸鋸取り替え扉など可動部分のカバーは閉めた状態で使用して下さい。
 - ・けがの原因になります。
8. 加工材料の長さが800mm以上の場合は、必ずバイスの前に材料と同じ長さ以上の補助テーブルを設けてから作業して下さい。
 - ・加工材の落下によるけがの原因になります。
9. ご使用に先だち必ず接地（アース）をして下さい。
 - ・感電事故の原因になります。
10. 本機械には死亡または重傷事故防止のために、警告表示が貼付されています。警告表示の内容を十分理解するとともに、その取付位置を確認の上使用して下さい。

⚠ 注 意

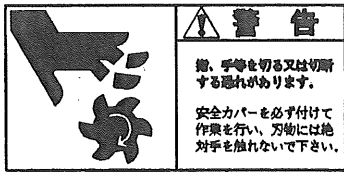
1. 丸鋸刃、付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けて下さい。
 - ・ 確実にないと、外れたりし、けがの原因になります。
2. 作業中は軍手など、巻込まれる恐れのある手袋を着用しないで下さい。
 - ・ 回転部に巻込まれけがの原因になります。
3. 作業前に、機械を空転させ、異常音や振動などの異常がないことを確認して下さい。
 - ・ 異常があるまま使用しますとけがの原因になります。
4. 丸鋸刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用して下さい。
 - ・ 刃物が破損し、けがの原因になります。
5. 丸鋸刃の取付け、取外しなど刃物の取扱いの時には手を切る恐れがありますので刃先に十分注意して下さい。
 - ・ けがの原因になります。
6. 機械は水平で安定する場所に置き、基礎ボルトにより機械を固定して下さい。
 - ・ 不安定な状態で作業するとけがの原因になります。
7. 材料に釘などの異物がないことを確認して下さい。
 - ・ 異物があると刃物が破損することがあり、けがの原因になります。

	<p style="text-align: center;">⚠ 警 告</p> <p>指、手等を切る又は切断する恐れがあります。</p> <p>安全カバーを必ず付けて作業を行い、刃物には絶対手を触れないで下さい。</p>
---	--

	<p style="text-align: center;">⚠ 警 告</p> <p>指、手等が挟まれる恐れがあります。</p> <p>パイスの前後及びパイスとテーブルの間には絶対手を入れないで下さい。</p>
---	---

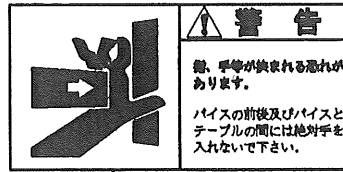
	<p style="text-align: center;">⚠ 警 告</p> <p>感電の恐れがあります。</p> <p>保守・点検の際は、必ず電源プラグを外し、かつ元スイッチを「切り」の状態にして下さい。</p>
---	--

安全に機械を使うための注意
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械の据付け及び使用する前には、必ず取扱説明書を熟読し、その指示に従って下さい。 2. 雨中の使用は避けて下さい。 3. アース（接地）してご使用下さい。 4. 機械に貼られた銘板の指示を守って下さい。 5. 安全カバーや安全装置を取り外したままで、機械を使用しないで下さい。 6. 機械の点検や修理をする場合は、電源プラグを外し、かつ、元スイッチを「切り」の状態にして下さい。 7. 使用後は電源を切り、機械及び機械周辺の清掃を行って下さい。 <p>上記の注意事項を守っていただかないと、人身事故や機械の破損、加工物の破損につながります。</p>



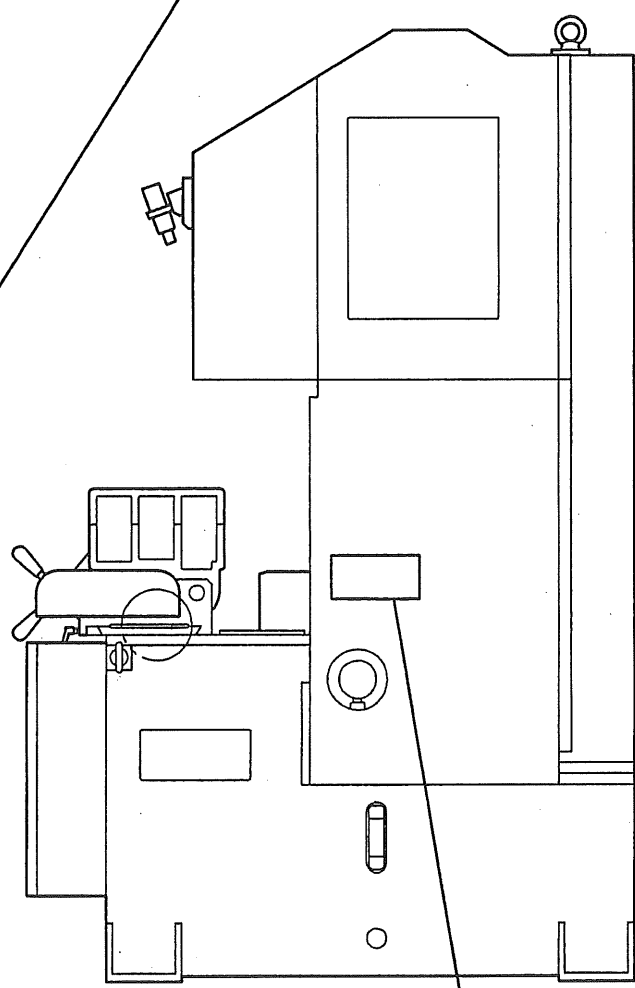
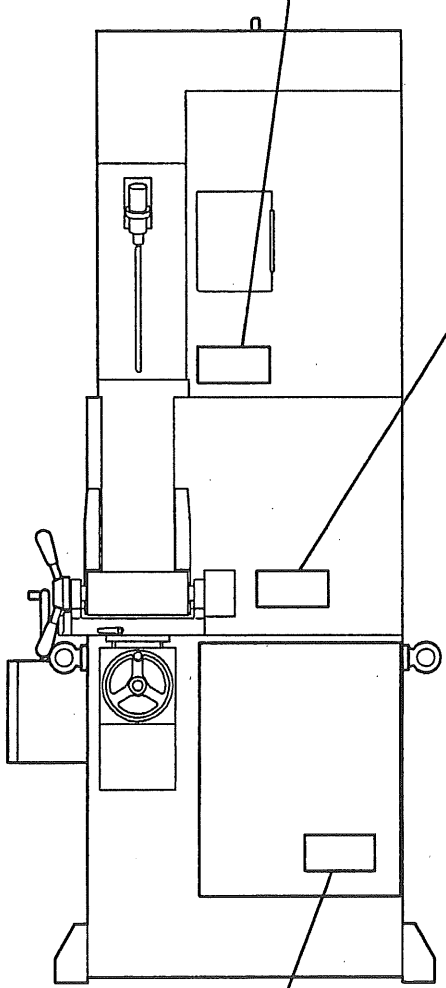
警告

指、手を切る又は切断する恐れがあります。
安全カバーを必ず付けて作業を行い、刃物には絶対手を触れないで下さい。



警告

指、手等が挟まれる恐れがあります。
ハイスの前後及びハイスとテーブルの間には絶対手を入れないで下さい。



警告

感電の恐れがあります。
保守・点検の際は、必ず電源プラグを外し、かつ元スイッチを「切り」の状態にして下さい。

- 安全に機械を使うための注意**
1. 機械の据付け及び使用する前には、必ず取扱説明書を熟読し、その指示に従って下さい。
 2. 雨中での使用は避けて下さい。
 3. アース（接地）してご使用下さい。
 4. 機械に貼られた銘板の指示を守って下さい。
 5. 保護カバーや安全装置を取り外したままで、機械を使用しないで下さい。
 6. 機械の点検や修理をする場合は、電源プラグを外し、かつ、元スイッチを「切り」の状態にして下さい。
 7. 使用後は電源を切り、機械及び機械周辺の清掃を行って下さい。上記の注意事項を守っていただかないと、人身事故や機械の破損、加工物の破損につながります。

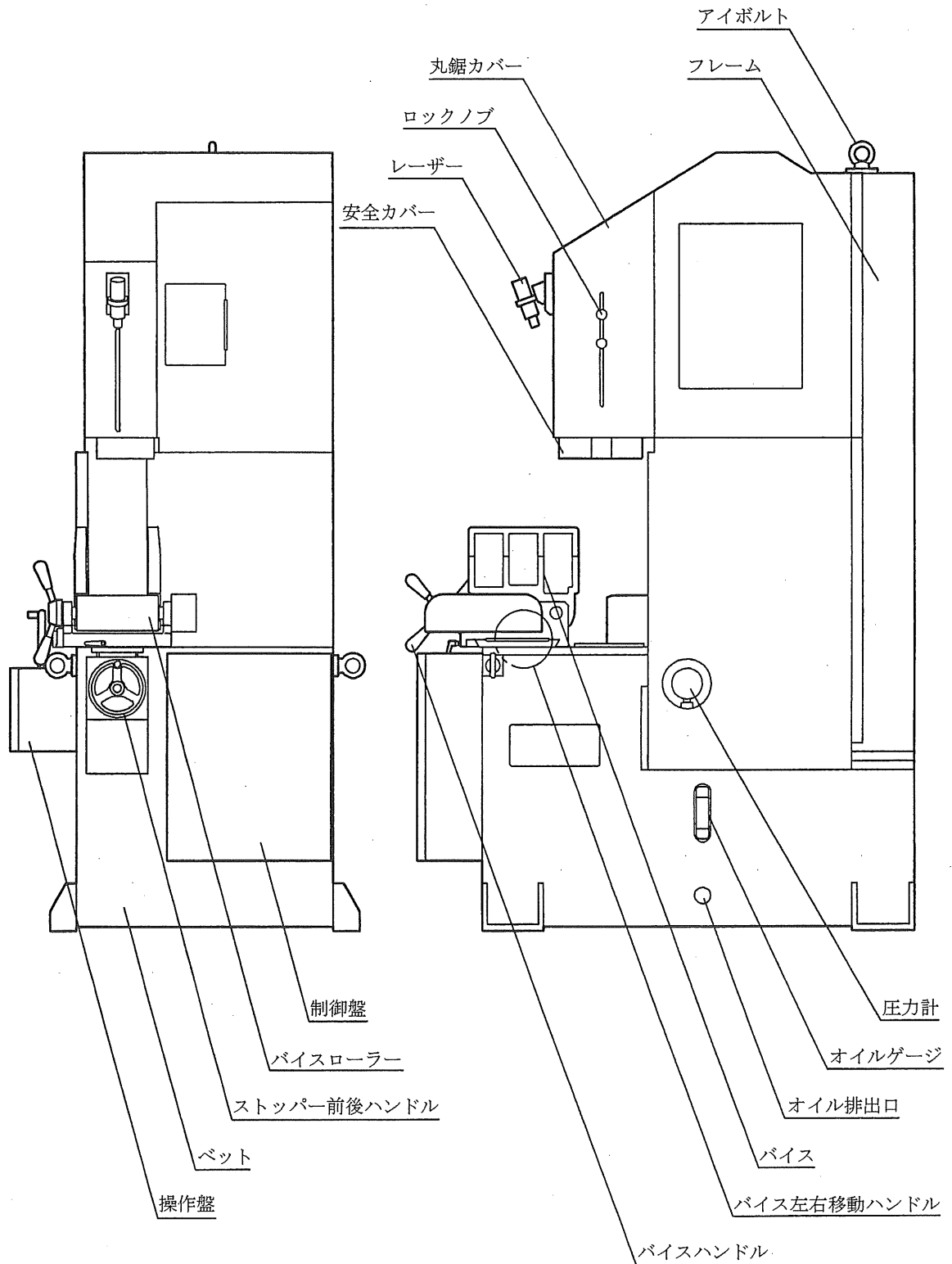
目 次

△機械を安全に使用していただくために	1
目次	
1. 機械の主要諸元 (仕様)	8
2. 機械各部の名称	9
3. 据付け	10
3-1. 据付け	10
3-2. 固定	10
3-3. 電源の接続	10
3-4. 集塵	11
3-5. 関連法規	11
4. 操作手順	12
4-1. 刃物の取付け	12
4-2. 操作盤の操作	13
4-3. 切断速度の調整	13
4-4. 加工操作手順	14
4-5. レーザーの調整	14
4-6. 加工操作手順	14
5. 保守・点検	15
5-1. 日常点検	15
5-2. 月間点検	15
5-3. 年間点検	15
6. 配線図、配管図	16
7. 故障、異常の場合の対処方法	18
8. 部品リスト	19

1. 機械の主要諸元 (仕様)

加工材料寸法	加工材の巾	75~150mm
	加工材の最大高さ	360mm
	最大スリット深さ	200mm
バ イ ス	バイスの大きさ	270×165mm
	床面からバイス までの高さ	825mm
主 軸	丸 鋸 寸 法	φ510×d25.4×t5.5mm
	丸鋸回転数	2500rpm
	上下移動量	650mm
油 圧 装 置	油圧ポンプ	V15モーターポンプ
	圧 力	35kg/cm ² (3.4MPa)
	丸鋸昇降用 シリンダー	φ50×650mm
	使用オイル	油圧作動油 VG32
	オイルの入る量	35ℓ
使用モーター	丸 鋸 用	5.5kw 4P
	油 圧 用	1.5kw 4P
	総所用電力	7.0kw
機 械 寸 法	巾	852mm
	高 さ	1910mm
	奥 行 き	1274mm
機 械 質 量		900kg

2. 機械各部の名称



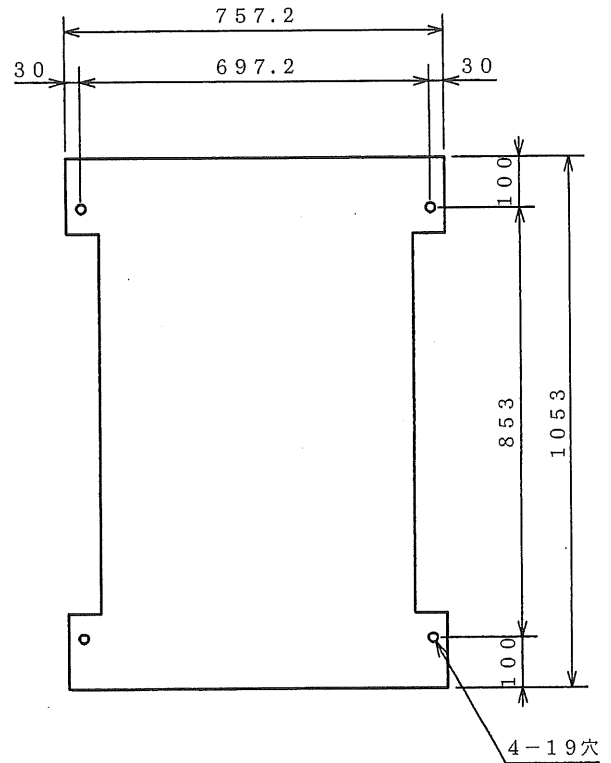
3. 据付け

据付け環境

(1) 故障原因となりますので、高温、多湿、油煙、湯気が当たる場所は避けて下さい。

(2) 本機械の周囲は、安全と作業能率のためにできるだけ広く空間を設けて下さい。

(3) 本機械の水平を保つために、必ず基礎工事を行って下さい。



3-1 据付け

据付け場所は基礎工事の行った安定した場所に据付けて下さい。基礎工事は基礎図面に基づいて行い、ジャッキボルトで調整しながら水準器を使用して、テーブル面が水平になる様に調整し、六角ナットにて固定して下さい。

3-2 固定

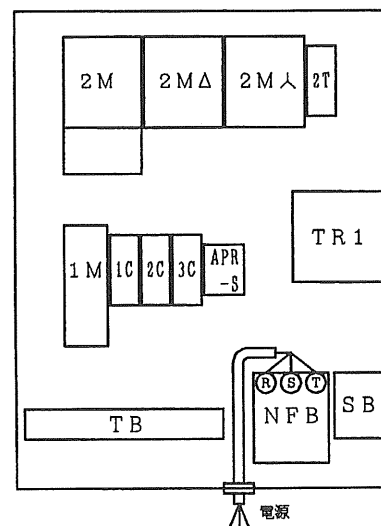
機械が振動、衝撃等により移動しないように基礎ボルト等により、本機械を必ず床面に固定して下さい。

3-3 電源の接続

電源の誤配線による重傷事故を避ける為に、接続工事は電気工事士の免許のある方が必ず行って下さい。

又、漏電による感電事故を避ける為に必ず接地（アース）をお取り下さい。

※ RST電源を接続しても逆相（モーターの回転方向が逆になる）の場合はモーターは回りません。



3-4 集塵

本機集塵ダクトと集塵機を塩ビ製ホース等で接続します。
接続口径はφ100mmです。

3-5 関連法規

(1) 設置の届出

騒音規制法（昭和43年法律第98号）及び騒音規制法施行令（昭和43年政令第324号）の規定により、製材用にあつては原動機の定格出力が15キロワット以上、木工用にあつては原動機の定格出力が2.25キロワット以上の丸鋸盤については、都道府県知事が指定した指定地域に設置する場合にはあらかじめ届け出る必要があります。

(2) 安全装置の設置義務等

労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）、労働安全衛生施行令（昭和43年政令第318号）、労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）、またこれらに基づく告示等の規定により、丸鋸盤については各種の規制があるので遵守する必要があります。

なお、これらについて詳細にお知りになりたい場合は、所轄の労働基準監督署に御尋ね下さい。

4. 操作方法

⚠ 警告： 指・手等の切断事故を回避するために

・ 丸鋸との接触による重傷事故を避けるために、必ず安全カバーをつけ、「丸鋸取り替え扉」を閉めた状態で使用して下さい。

⚠ 警告： 指、手等の挟み込み事故を回避するために

・ バイスとの挟み込み事故を避けるために材料とバイスの間に手を入れないで下さい。
・ 加工材の長さが800mm以上の場合は、必ずバイスの前に材料と同じ長さ以上の補助テーブルを設けてから作業を行って下さい。

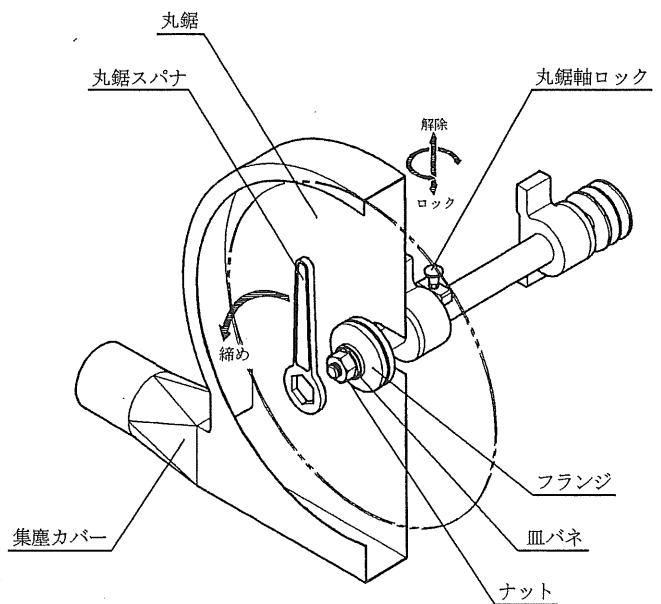
4-1 刃物の取付け

丸鋸軸ロックの「つまみ」を解除の方向に引っ張り90°回転してから、「つまみ」を戻し丸鋸軸を手で軽く回してロックピンが主軸の穴にはまりこみ回らないようにして下さい。

丸鋸軸からナット、皿バネ、フランジを外し丸鋸をはめます。

次にフランジ、皿バネ、ナットの順に丸鋸軸にはめ、丸鋸スパナを使って締め方向に締付けます。

作業終了後は丸鋸軸ロックを解除の位置に固定して下さい。

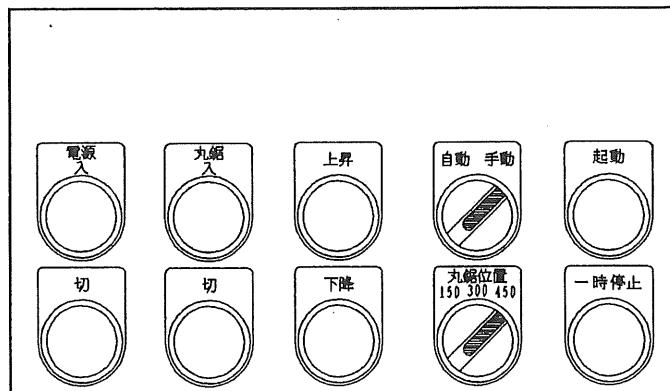


4-2 操作盤の操作

・電源入、切

電源入押釦スイッチを押すと、ランプが点灯し油圧ポンプが回転します。

電源切押釦スイッチを押すと、全ての機能が停止し、電源入押釦スイッチのランプが消えます。



・丸鋸入、切

電源入後、丸鋸入押釦スイッチを押すと、丸鋸が回転します。

丸鋸切押釦スイッチを押すと、丸鋸の回転が停止します。又、加工中に押した場合は、丸鋸の回転が停止すると同時に丸鋸の昇降も停止します。

・上昇、下降

運転方法が手動の時、上昇押釦スイッチを押すと、押している間丸鋸は上昇し、下降押釦スイッチを押すと、押している間丸鋸は下降します。

・自動、手動

運転方法を自動運転と手動運転のいずれかに切替えます。

・丸鋸位置

自動運転の時、材料の高さに合わせて丸鋸の上端停止位置を切替える事が出来ます。

・起動

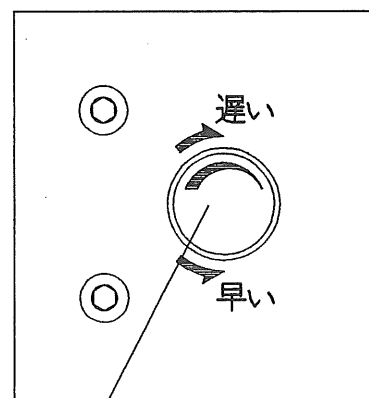
丸鋸が下降して加工を始めます。

・一時停止

丸鋸の下降を一時停止します。起動釦を押すと加工を再開します。

4-3 切断速度の調整

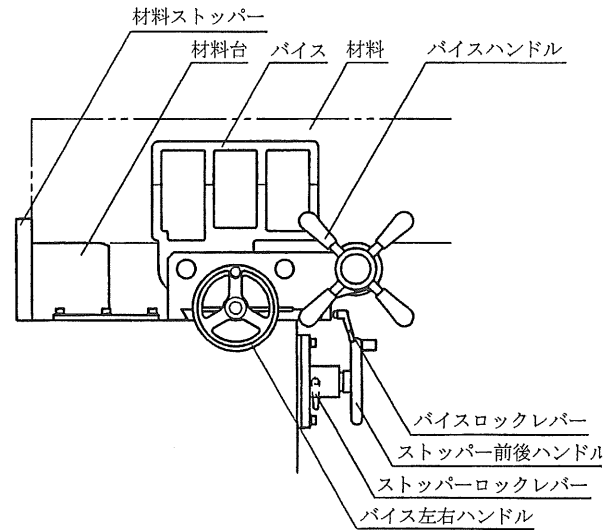
切断する材料の巾、材質に合わせ、切断速度の調整を行って下さい。機械左側面のスピードコントローラーを回す事により、切断速度の変更が出来ます。上昇速度の変更は出来ません。



スピードコントローラー

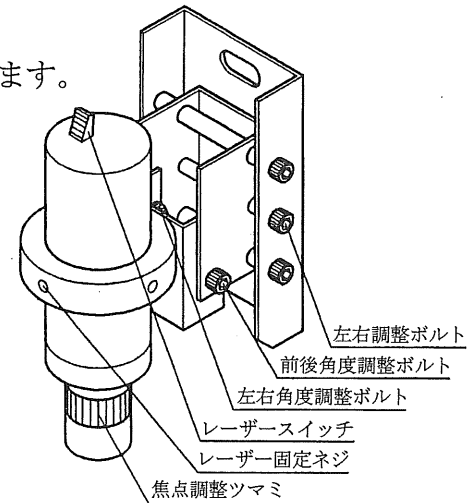
4-4 バイスの操作

1. ストッパーロックレバーを緩めて、ストッパー前後ハンドルにて材料ストッパーを前後させ、スリットの深さを決めます。
2. 材料をバイスローラーの上に乗せて、材料ストッパーに当たるまで送り込みます。
3. バイスハンドルにて材料を確実に締めて下さい。
4. レーザーと墨線が合う様にバイスロックレバーを緩めて、バイス左右ハンドルにて調整して下さい。



4-5 レーザーの調整

- 左右調整ボルト ボルトを回す事により左右に平行移動します。
- 前後角度調整ボルト ボルトを緩めると前後に傾きます。
- 左右角度調整ボルト ボルトを緩めると左右に傾きます。
- レーザー固定ネジ 固定ネジを緩めるとレーザー本体の回転が出来ます。
- 焦点調整ツマミ 投光線の焦点を調整します。
- レーザー投光線は、丸鋸刃がどの高さの位置にあっても平行になる様に調整して下さい。



4-6 加工操作手順

手動運転

1. 手動運転にスイッチを切替えます。
2. 木口のスリットの深さを合せます。
3. 材料をストッパーに当て、バイスに挟みます。
4. バイス左右ハンドルでレーザーと墨線を合せます。
5. 丸鋸入押釦スイッチを押し、丸鋸を回します。
6. 丸鋸下降押釦スイッチを押し、材料を加工します。
7. 丸鋸上昇押釦スイッチを押し、丸鋸を材料の高さより上に上昇させます。
8. 丸鋸切押釦スイッチを押しバイスを緩めて材料を取り出します。

自動運転

1. 自動運転にスイッチを切替えます。
 2. 木口のスリットの深さを合せます。
 3. 材料をストッパーに当て、バイスに挟みます。
 4. バイス左右ハンドルでレーザーと墨線を合せます。
 5. 丸鋸入押釦スイッチを押し、丸鋸を回します。
 6. 起動押釦スイッチを押し、材料を加工して上端に戻ります。
上端停止位置は丸鋸位置スイッチの切替えで行って下さい。
- ※ 自動運転中危険が発生した時は、電源切スイッチを押して下さい。
下降が停止し丸鋸の回転が止まります。

5. 保守・点検

⚠ 警告： 指、手等の切断事故を回避するために

- ・ 機械の不意の起動による重傷事故を回避するために、機械の保守、点検の際には電源プラグを外し、かつ、元スイッチを「切り」の状態にして丸鋸の回転が停止した後には保守・点検の作業を行って下さい。

5-1 日常点検

その日の作業を開始する前に、次の事項を点検して下さい。

1. 警告表示の状態を確認する。
2. カバー等の取付状態を確認する。
3. 刃物の切れ具合を調べる。
4. 刃物の締付具合を確認する。
5. バイスの締付具合を確認する。
6. レーザーの投光状態を確認する。

5-2 月間点検

毎月1回、次の事項を点検して下さい。

1. リニヤガイド軸受部へのグリス給油
2. 丸鋸の昇降具合
3. 丸鋸用Vベルトの張り具合の確認
4. 配線、配管の状態
5. 油もれのチェック
6. リニヤガイド、シリンダーロッドへのゴミの付着状態
7. 操作スイッチの状態

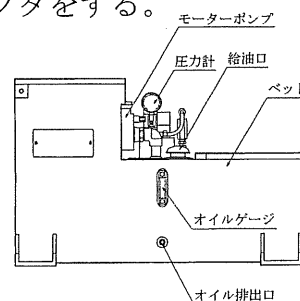
5-3 年間点検

年1回、次の事項を点検して下さい。

1. 機械各部の全体点検
2. 油圧タンク内のオイルの交換

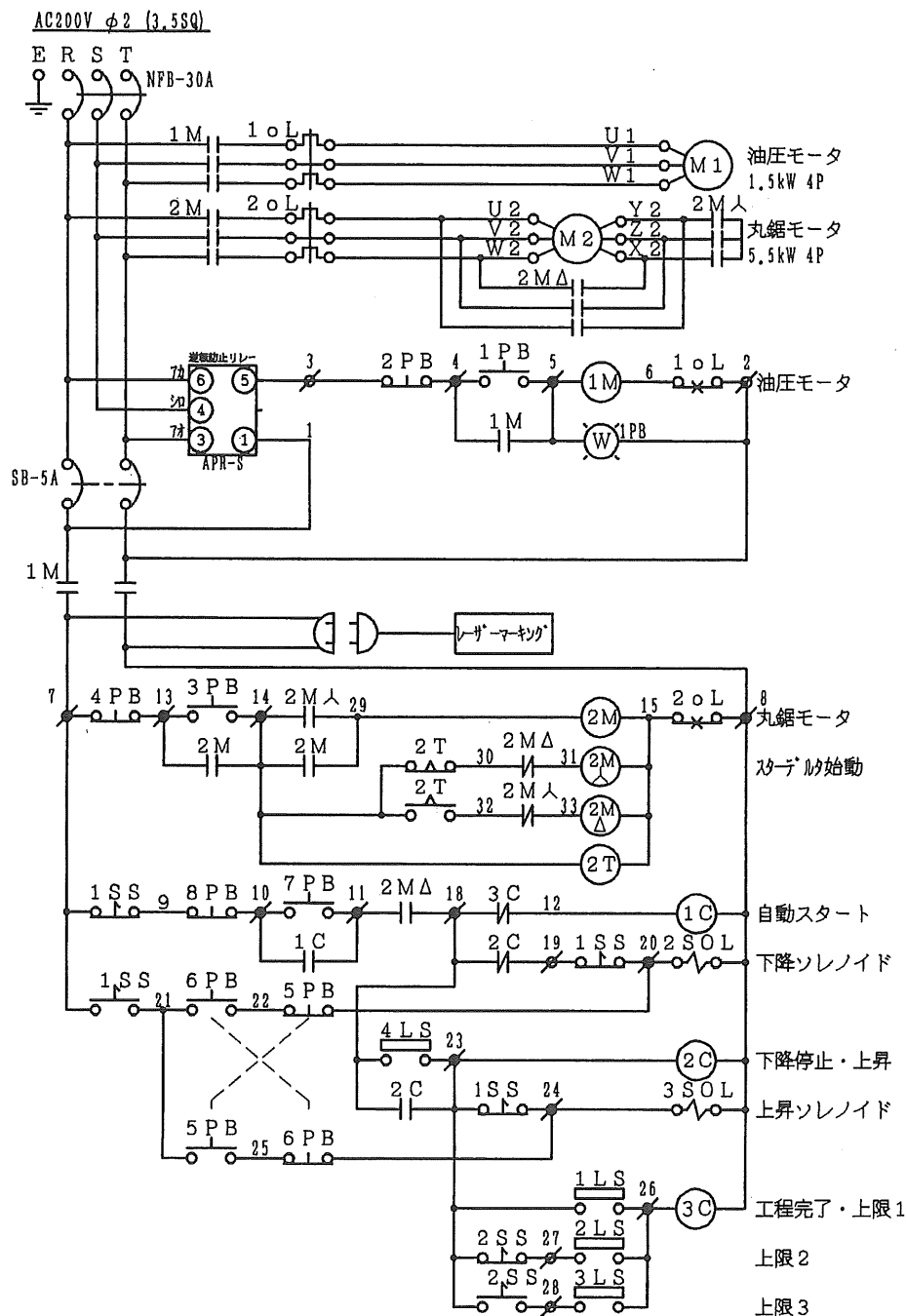
オイルの交換方法

1. 油圧タンク側面のオイル排出口のプラグを緩めタンク内のオイルを出す。
2. プラグにシールテープ（漏れ止め用）を巻きオイル排出口のフタをする。
3. 給油口のフタを取り、油圧作動油VG 32を入れる。
4. オイルゲージを見ながらオイルを入れHとLの間までオイルを入れる。
5. 給油口のフタをする。

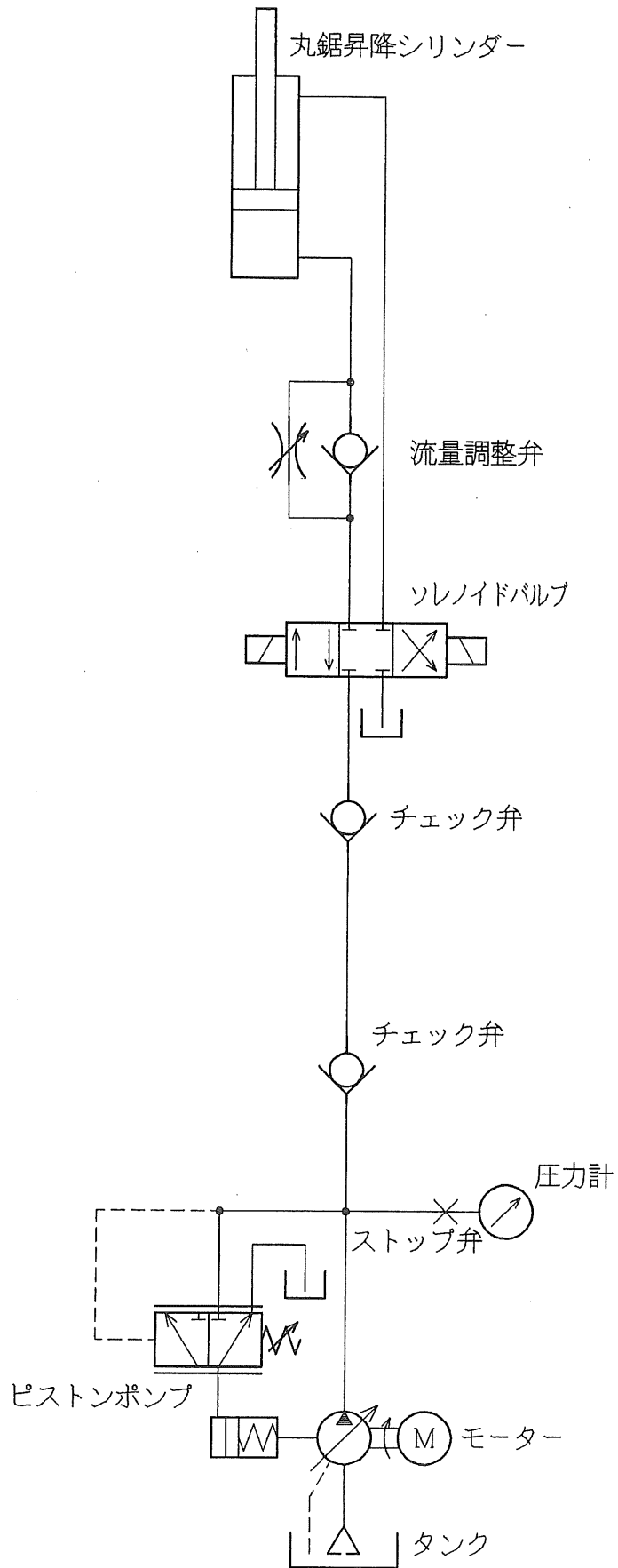


6. 配線図、配管図

電気配線図



油圧配管図



7. 故障、異常の場合の対処方法

⚠ **警告**：指、手等の切断事故を回避するために

- ・ 機械の可動部分との接触による重傷事故を避けるために、機械の故障、異常に対処する際には電源プラグを外し、かつ、元スイッチを「切り」の状態にして下さい。
丸鋸の接触による重傷事故を避けるために、必ず丸鋸の回転が停止した後に修理
- ・ 点検の作業を行って下さい。

故障の場合や使用中に異常が生じた時は直ちに機械の運転を中止し、電源プラグを外し、かつ、元スイッチを「切り」の状態にして販売店に機械の点検を依頼して下さい。

ただし、次のような現象の場合には、故障ではないことがありますので、以下のことをお調べ下さい。なお、それでも具合が悪いときは、自分で修理せず、販売店に依頼して下さい。

機械を調べられる際には、次の点に留意して下さい。

1. 状況を十分把握してから点検、修理作業を行う。
2. 複数の作業による共同作業が必要な場合は、事前に共同作業者と十分に打合せてから作業を行う。
3. 作業に合った適正な工具類を使用する。

故障、異常の内容	原因	対策
油圧ポンプが回らない	電源が入っていない	元電源を確認する。
	ブレーカーが切れている	操作盤内のブレーカーを入りにする。
	サーマルが働いている	リセット釦を押します。 (自動復帰時は10秒間待って下さい)
	電源が逆位相になっている	配線盤内のRSTに接続してある電源のRSTを入れ替える。
丸鋸が回らない	電源入押釦スイッチが入っていない	電源入押釦スイッチを押す。
	丸鋸軸ロックが入っている	丸鋸軸ロックを解除する。
	Vベルトが緩んでいる	テンションを張り直す。
切断中に丸鋸が止まる	刃物の摩耗	刃物の交換又は再研磨を行う。
	切断速度が速すぎる	スピードコントローラーを調整して遅くする。
	Vベルトが緩んでいる	テンションを張り直す。
スリット加工が木口の中心にならない	バイスが丸鋸刃の中心になっていない	バイス左右ハンドルで丸鋸刃が中心になる様に調整する。
	レーザー投光線が合っていない	レーザー投光線の調整を行う。

8. 部品リスト

・ 機械関係

使用箇所	部品名	規格	メーカー名	数量
主軸	軸受	6207ZZ	NSK	3
	軸受	6203ZZ	NSK	2
	インデックススプラシヤ	PXY-6-A	NBK	1
	Vベルト (開削)	B-34	三星	2
	Vベルト (開削)	B-35	三星	2
	丸鋸ナット	321-04-205	常盤	1
	バネ座金	R50		1
	丸鋸スパナ	011-04-212	常盤	1
	フランジ	011-04-203	常盤	2
フレーム	リニヤガイド	LS251000AL2-003P63	NSK	2
	ディンプルノブ	KDM-25-M6×16	NBK	2
	ディンプルノブ	KDM-20-M5×16	NBK	2
バイス	軸受	6306ZZ	NSK	2
	軸受	6010ZZ	NSK	2
	スラスト軸受	51105	NSK	2
	ファインUナット	FU05SS	富士精密	1
	チェーン	#40×46リンク	OCM	1
	クランプレバー	LDM-6×20-BK	NBK	1

・ 油圧関係

使用箇所	部品名	規格	メーカー名	数量
フレーム	油圧シリンダー	35H-21TC50S35B650-BC	タイヨー	1
ベッド	モーターポンプ	M15A1-2-50	ダイキン	1
	給油ロブリーザー	FU-50	大生工業	1
	オイルゲージ	KL-100B	協和	1
	圧力計	AC10-131-V-100K	長野計器	1
	サクションフィルター	SFG-08	ダイキン	1
	インラインチェック弁	HDIN-T03-05	ダイキン	1
	Pポートチェック弁	MC-02P-05-50	ダイキン	1
	流量調整弁	HFC103	ダイキン	1
	ソレノイドバルブ	KSO-G02-2CB-10-S	ダイキン	1

・ 電気関係

使用箇所	部品名	規格	メーカー名	数量
操作盤	押釦スイッチ	AH22-FG10	富士	4
	押釦スイッチ	AH22-ER01	富士	3
	押釦スイッチ	AH22-ELW10M3	富士	1
	押釦スイッチ	AH22-PC3B042	富士	1
	押釦スイッチ	AH22-P2B13	富士	1
	ブレーカー	EA33B/30A	富士	1
	ブレーカー	CP32D/5A	富士	1
	マグネットスイッチ	SW-1N 5.5kw 200V	富士	1
	マグネットスイッチ	SW-0 1.5kw 200V	富士	1
	マグネットスイッチ	SC-1N 200V	富士	2
	マグネットスイッチ	SZ-A20 200V	富士	1
	リレー	HH52PL 200V	富士	3
	タイマー	H3Y-2 5S 200V	オムロン	1
	逆相防止リレー	APR-S 200V	オムロン	1
	リミットスイッチ	D4MC-5020	オムロン	4
フレーム	モーター	5.5kw 4P		1

営業所一覽

●リョービパワーツールのご相談は、お買い求めの販売店もしくは、下記最寄りのリョービ販売営業所へお気軽にお問い合わせください。

北日本営業部

札幌営業所 ☎(011)812-3751
仙台営業所 ☎(022)237-6231
秋田駐在所 ☎(018)863-4177
郡山営業所 ☎(024)939-6101
新潟営業所 ☎(025)275-3321
帯広営業所 ☎(0155)41-0414
青森営業所 ☎(017)729-0465
盛岡営業所 ☎(019)646-8911
山形営業所 ☎(023)642-9552
長岡営業所 ☎(0258)30-4063

関東営業部

埼玉営業所 ☎(048)624-4605
宇都宮営業所 ☎(028)624-6862
東京北営業所 ☎(03)3927-5571
千葉営業所 ☎(043)262-1581
柏営業所 ☎(04)7176-3671
前橋営業所 ☎(027)254-0022
茨城営業所 ☎(0299)24-2631
厚木営業所 ☎(046)248-6724
横浜営業所 ☎(045)921-5252
国立営業所 ☎(042)574-8131

中部営業部

名古屋営業所 ☎(052)807-1631
小牧営業所 ☎(0568)75-6781
静岡営業所 ☎(054)246-6907
松本営業所 ☎(0263)26-8699
金沢営業所 ☎(076)268-7516
福井営業所 ☎(0776)21-4037
三河営業所 ☎(0564)25-2381
津営業所 ☎(059)246-8011
浜松営業所 ☎(053)441-3360
長野営業所 ☎(026)244-3595
富山営業所 ☎(076)422-1920

関西営業部

高槻営業所 ☎(072)681-3661
舞鶴駐在所 ☎(0773)62-0588
和歌山営業所 ☎(073)472-8074
京都営業所 ☎(075)672-1221
大阪営業所 ☎(06)6748-5171
神戸営業所 ☎(078)924-8050

中四国営業部

広島営業所 ☎(082)823-1733
米子営業所 ☎(0859)34-7271
福山営業所 ☎(084)943-5656
高松営業所 ☎(087)865-8101
徳島営業所 ☎(088)664-3317
鳥取営業所 ☎(0857)22-1071
岡山営業所 ☎(086)241-2581
防府営業所 ☎(0835)22-6448
松山営業所 ☎(089)956-3330
高知営業所 ☎(088)880-6008

九州営業部

福岡営業所 ☎(092)623-5010
久留米営業所 ☎(0942)44-1615
宮崎営業所 ☎(0985)24-1070
大分営業所 ☎(097)538-3258
沖縄営業所 ☎(098)875-2850
熊本営業所 ☎(096)365-7311
北九州営業所 ☎(093)561-7206
鹿児島営業所 ☎(099)266-0373
長崎営業所 ☎(095)839-5466

〈2002年11月現在〉

RYOBI
リョービ販売株式会社

部品のご入用、故障の場合、その他取扱い上で不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービ販売営業所にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観等を変更する場合があります。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社